



「Total Defence Day」80周年

北陸銀行 国際部
シンガポール駐在員事務所
上原 清志

毎年2月15日はシンガポールの歴史にとって重要な日です。「Total Defence Day (国防の日)」と名付けられたこの日は、歴史に詳しい方ならお分かりだと思いますが、1942年2月15日、シンガポールを統治していた英国連合軍が旧日本軍に降伏した日（降伏についてイエスかノーか迫るというエピソードで有名）であり、また、約3年7か月間に渡るシンガポールの耐え難い日々が始まった日でもあります。



【1942年2月15日の降伏交渉場面：シロソ岩展示スペースにて筆者撮影】

「Total Defence Day」は1984年2月15日に制定されましたが、意義については2つの側面があります。一つは約3年7か月間に渡る旧日本軍占領下で犠牲になった人々を慰霊するため、もう一つは国民が国家防衛を意識するよう自国アイデンティティを喚起させるためです。過去が忘れ去られることがないように、降伏調印が行われた2月15日夕刻にシンガポール国内中でサイレンが響き渡ります。また、外敵から攻撃があった際のシェルターへの避難や警報解除といったサイレン音について住民に改めて周知され、日常

生活における防衛意識や安全保障への再考・知識向上が行われます。

今年ちょうど80周年という節目の年でした。新型コロナ禍で大々的な行事は開催されませんでした。日本のマスコミでも犠牲者慰霊祭について取り上げられました。リー・シェンロン首相が当日メディアに掲載したコメントの中に、「We observe Total Defence Day every year as a sombre reminder that we can depend on no one, but ourselves, to protect our country. (私たちは、毎年『国防の日』を重苦しい記憶を伝える日として位置づけており、国を守るためには国民以外に誰も頼ることはできない。)」というくだりがありました。旧日本軍による占領やマレー連邦からの不本意な独立といった苦難の歴史を乗り越えたシンガポールの「Total Defence (国防)」に対する強い自立意識が垣間見えました。

この行事を通じて、シンガポールの歴史や国防意識の高さについて、私自身の理解を深めるきっかけになっています。また、駐在国目線の史実を知ることは現地で生活している外国人にとって責務の一つとも感じています。

以上

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださるようお願いいたします。

ほくりく長城会

長城メール

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp